

International Association of Dynamic Psychotherapy

国際力動的心理療法学会

第 23 回年次大会

大会テーマ

自我の力と可能性

—心理・教育・医療・看護における展開の鍵—



日時

2017年11月3日（祝・金）—5日（日）

会場

東京工業大学（田町キャンパス）キャンパスイノベーションセンター

〒108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6

大会会長

能 幸夫（PAS 心理教育研究所 所長）

第 23 回年次大会 大会会長挨拶

『潜在的に眠らせている自我の力を発揮し、ともに学んでいこう!』



IADP 第 23 回年次大会の大会テーマは『自我の力と可能性 (The potentiality of the Ego) ー心理・教育・医療・看護における展開の鍵』です。

自我の概念は、Freud, S. の初期の業績においても散見されますが、心の主体としての自我が概念化されたのは、二つの世界大戦の間に挟まれたヨーロッパの激動の時代でした。その端緒となったのは抵抗の概念であり、そこから Freud は、それまで自我と呼んでいたものの大部分が無意識的に働いていることに注目しました。自我のひとつの特徴は、心の発達過程において、自我自体の機能も成長し、洗練されていくということです。

現在のわたしたちの臨床現場を省みますと、家族や学校教育、医療領域、産業場面において、心の主体となり人格を育てバランスを取る機能をもつ自我そのものを成長させ、鍛えることの機会があきらかに激減しています。結果や効果を効率的に求める高度情報社会のハイスピード化の波に呑み込まれ、また一見、便利な IT 機器によって、待つことのできない、そして言葉を心のうちに留めない刺激と反応の間に主体を欠いたような状況が目立ちます。これが、うつやうつ病の蔓延と遷延化、いじめや不登校、自傷やストーカーといった子どもや若者を取り巻く問題や、なかなか解消されない職場や人間関係におけるストレスなどのひとつの要因となっています。

しかし、冒頭に述べたように、自我の機能の大部分は無意識的に機能しています。一見、自我が脆弱なため、心の作業を回避するように見えるクライアントが増えています。彼らの心においても自我は無意識的に機能しているかあるいは何らかの

刺激があれば機能できる力を眠らせている可能性があります。また、自我脆弱性を前提とする精神病患者の心においても、薬物療法の助けを借りて自我を脅かす衝動とのバランスがとれれば、自我の力を発揮できる可能性があります。これらのクライアントや患者に潜在する自我の力と可能性をどのように賦活し生かしていくことができるか、そのことを年次大会の3日間で追究していきたいと思えます。

今大会では、このテーマと並行して、学会理事企画による『事例研究ワークショップ』も持たれます。日常の臨床実践を研究レベルにまで引き上げていく機会です。事例報告、事例研究の積極的な発表をお待ちしております。

わたしたち臨床家も潜在的に眠らせている自我の力を発揮し、ともに学び、刺激し合える爽やかな大会としていきたいと思います。

第 23 回年次大会大会会長
能 幸夫 (PAS 心理教育研究所 所長)

大会会長プロフィール

神奈川県川崎市出身。心理療法家(資格:臨床心理士・精神保健福祉士)

【専門】精神分析的心理療法 精神分析的集団精神療法 力動的支持的心理療法 精神病水準の患者の心理療法技法 心理療法訓練

【略歴】

湘南病院 福祉医療相談室 室長

東京心理臨床システムズアプローチ研究所での訓練(5年)修了後、PAS 心理教育研究所研究部ディレクターを経て、同研究所所長

【著書】

〈原著論文〉

- ・対人恐怖を主訴とする青年期女子の初期抵抗の徹底操作過程
- ・精神分析的集団精神療法の初期過程に関する臨床研究ー抵抗探求アプローチによるグループ導入面接技法構成の精緻化の試みー
- ・Mechanism of Dynamic Psychotherapy for Manic-Depressive Psychosis. Process of Arousing Sense of Self Aiming Stable Self Identity.

〈その他主要著書・論文〉

- ・心的安全空間創成の豊かな機会としての集団精神療法ー実践事例の力動分析からの検討
- ・精神病水準のアイデンティティ集団精神療法の実践ー統合失調症の機能しているグループ様態の技法的検討
- ・統合失調症とその近縁患者における否定的感情の受容プロセスー心的安全空間としての心理療法空間とグループ空間の意味ー

など

ゲスト・ファカルティ



セス・アロンソン, Psy.D., CGP, FAGPA

ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所トレーニング・スーパーヴァイジング・アナリスト。同研究所児童・青年期心理療法訓練プログラムにおいて訓練・スーパーヴィジョンに取り組む。アメリカ心理学会 39 分科会セクション 2(児童青年期)の無任所委員。ロングアイランド大学非常勤教授。イエシーバー・ホベレイ・トラー (Yeshivat Chovevei Torah) においてラビ学生へのプロセスグループのリーダーを務める。"The Handbook of Child and Adolescent Group Therapy" (2017) (クレグ・ハーンと共編) において、スーパーヴィジョン・分析家の喪の作業・分析家としてヤマカを被ること・子どもの治療における治療的介入について執筆している。アメリカ集団精神療法学会フェロー。



ラルフ・モラ, Ph.D., MSS, CAIA

アデルファイ大学において臨床心理学の博士号を取得。アメリカ陸軍戦略大学およびテキサスA&M 大学において卒業研究を完成させた。2014 年にアメリカ国防総省での仕事を引退し、現在はメリーランド大学の非常勤教授を務め、また山口県岩国市にて個人開業を行う。最近の論文には、統合された早期児童発達、心的外傷後ストレス障害、アディクション、統合された保健行動学に関するものがある。

スペシャル・ファカルティ



吉松 和哉, M.D.

東京大学医学部医学科卒業。医学博士。信州大学医学部精神医学教室教授、大正大学大学院臨床心理学専攻教授を経て、現在、式場病院特別診療顧問。日本集団精神療法学会元理事長。日本精神病理学会元理事、日本社会精神医学会元理事、日本精神分析学会元運営委員。



牛島 定信, M.D.

九州大学医学部卒業。国立肥前療養所院長、福岡大学医学部教授、東京慈恵会医科大学教授を経て、三田精神療法研究所所長。日本精神分析学会元会長、日本森田療法学会元理事長、日本サイコセラピー学会前理事長、日本児童青年精神医学会元理事長他。

第23回年次大会 大会スケジュール

2017年11月3日(祝・金):大会1日目	
10:30 10:45	開会式
10:45 11:45	大会会長講演 「精神病に対する力動的支持的心理療法の実践—自我脆弱性を前提とした治療可能性の追求—」 講演: 能 幸夫 (PAS 心理教育研究所 所長) 司会: 石川 与志也 (ルーテル学院大学 専任講師)
12:00 13:00	大会基調講演 「娘、教師、分析家: アンナ・フロイトの遺産」 講演: セス・アロンソン (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 トレーニング・スーパーヴァイジング・アナリスト) 司会: 橋本 和典 (PAS 心理教育研究所 理事)
13:00 14:15	昼食
14:15 16:30	IADP 理事会企画 事例研究ワークショップ トレーナー: 小谷 英文 (IADP 理事長 / PAS 心理教育研究所 理事長) 事例提供者: 宇佐美 しおり (熊本大学大学院生命科学研究部 教授) 花井 俊紀 (PAS 心理教育研究所) 司会: 中村 有希 (PAS 心理教育研究所 クリニカルディレクター)
17:00 19:00	IADP 理事会企画セミナー 「事例報告から事例研究へ」 講師: IADP 理事 (小谷 英文・石川 与志也・雨宮 基博・嶋田 一樹・武野 顕吾・中村 有希・能 幸夫・橋本 和典)

2017年11月4日(土):大会2日目	
9:30 12:00	研究発表 ※ 研究発表の規定については、8,9ページをご参照ください。
12:00 13:00	昼食
13:00 14:00	Edward Pinney 記念講演 「力動的療法の方法と目標とは: 55年の臨床経験から学んで」 講演: 吉松 和哉 (式場病院 特別診療顧問) 司会: 能 幸夫 (PAS 心理教育研究所 所長)
14:15 18:45	訓練ワークショップ ※ ワークショップの詳細は6,7ページをご参照ください。
19:30 21:30	懇親会 会場: 百代茶屋・田町店 (東京都港区芝浦 3-4-1 グランパークタワー B1 JR 田町駅徒歩5分)

2017年11月5日(日):大会3日目	
9:30 11:30	事例スーパーヴィジョン 講師 ① セス・アロンソン (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 トレーニング・スーパーヴァイジング・アナリスト) ② ラルフ・モラ (個人開業 / メリーランド大学非常勤 教授) ③ 宇佐美 しおり (熊本大学大学院生命科学研究部 教授) ④ 橋本 和典 (PAS 心理教育研究所 理事) ⑤ 牛島 定信 (ほづみクリニック) ⑥ 吉松 和哉 (式場病院 特別診療顧問) ※ 事例スーパーヴィジョンの規定については、8,9ページをご参照ください。
11:30 13:00	昼食 / 理事会
13:00 13:55	総会 学会員はご参加ください
14:10 16:40	全体ケースセミナー コンダクター: 小谷 英文 (IADP 理事長 / PAS 心理教育研究所 理事長)
16:40 16:45	閉会式

IADP 理事会企画

事例研究ワークショップ

トレーナー 小谷 英文 (IADP 理事長・PAS 心理教育研究所 理事長)

心理療法は事例研究に始まり、事例研究に終わる。心理療法能力を高めようと思うならば、事例研究だけは続けなければならない。しかし事例研究の進め方に関して、臨床界において十分に共有されているとは言い難い。本企画は、力動的な立場で事例報告、あるいは事例研究を進めている精神看護領域の危機介入事例、心理療法事例の2例を素材として、事例報告と事例研究の違い、事例研究にはどのような種類があり、どのようにテーマ設定を行い、研究デザインしていくものかの実際を学ぶ。

事例提供者: 宇佐美 しおり (熊本大学大学院生命科学研究部 教授)
花井 俊紀 (PAS 心理教育研究所)

「事例報告から事例研究へ」

講師 IADP 理事 (小谷 英文・雨宮 基博・石川 与志也・嶋田 一樹・武野 顕吾・中村 有希・能 幸夫・橋本 和典)

良い事例報告はそのまま事例研究であると国際的には言われていますが、なかなか良い事例報告をすることも難しいのが私たち共通の課題です。そこで今現在、自分が関わっている患者 / クライアントの事例をまず事例報告にまとめたい方、さらには事例研究にチャレンジしたいという方のための、2つのセミナーを準備しました。今、皆さんが直接関わっている事例をお持ちいただき、事例展開のスーパーヴィジョンを受けながら、その事例を事例報告としてどうまとめられるか、何が研究できるのか、を参加者全員で具体的に検討していきます。

訓練ワークショップ

困難患者への危機介入技法—ケア困難患者・心理療法困難患者危機介入分析面接法

オーガナイザー 宇佐美 しおり (熊本大学大学院生命科学研究部)
 トレーナー 小谷 英文 (IADP 理事長 / PAS 心理教育研究所)

【目的】 困難患者の危機対応場面(面接展開危機状況)における打開面接法を、1) 展開ポイントの取り出し、2) 問題の力動的アセスメント、3) 危機介入展開、の手順を踏み実際の面接技術を身につける。

【対象】 ケア困難患者事例を担当している看護、心理職および心理療法/カウンセリング、組織危機介入を行っている臨床家

【定員】 30名

【申し込み】

※ 氏名、所属、専門、経験年数を明記の上、担当ケア困難患者および心理療法困難患者、組織の対応について、1) ケース概要 2) 対応困難状況 3) 実際の対応で詰まった場面の面接逐語録を、以上3項目をA4用紙1枚に納まるよう記載し、参加申込書に添付して申し込むこと。

※ 先着順の受付受理を原則とし、定員に達した以降の申込者は第2希望の受付に廻っていただきますのでご了解願います。また上記の申し込み記載に漏れがある場合も第2希望に廻っていただくことがありますので、記載漏れのないようご準備下さい。

「果てしない世界の海辺で子供は遊ぶ」 子どもの心理療法のやりがいと楽しさ

トレーナー セス・アロンソン (ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所)

このワークショップでは、子どもの心理療法における著名な先駆者であるアンナ・フロイトとメラニー・クラインについて考察していく。子どもの作業を理解することで、臨床家は、彼らの子どもや青年、また大人の患者に対して役に立つ展開の機会を与えるのである。

ここでは、アンナ・フロイトとメラニー・クラインの理論や考えを比較対比させ、彼女らの理論の展開について議論していく。また彼女らの考えが、今日の子どもの現代的な心理療法にどのように応用されているか、子どものプレイセラピーにおける技法に着目しながら考察していく。事例の提供者と参加者は、フロイト的またクライン的考えが今日、このワクワクするような子どもとの心理療法においてどのように使われているかを吟味しながら、臨場的な事例のデータを描いていく。

※ このワークショップには当日通訳がつきます。

トラウマ反応の理解と対応

トレーナー 橋本 和典 (PAS 心理教育研究所 理事・同福島トラウマ心理療法センター 所長)

本ワークショップでは、東日本大震災の中長期PTSDのトリートメントのために開発した力動的集団精神療法(45分×3セッション):「バンドラグループ」を体験する。世の中のあらゆる厄災が飛び出した後に、エルピス(希望)が残るとするバンドラのメタファーは、PTSDトリートメント原理と合致するからである。トレーナーは、PTSD・トラウマ反応の査定や対応技術について、自身のグループ体験を用いて習熟することを目的とする。あらゆるメガ災害の被災地臨床家は、当然のことながら自身もトラウマを負いながらのタフな仕事になる。また日常臨床においても、現代困難クライアントの自己破壊の問題はそれに対峙しようとするセラピストや心理療法枠組みの破壊をも引き起こす。破壊の乱れを生産的な治療的作業に変えるためにも、セラピスト自身のトラウマ・ケアは欠かせない。そのための力動的集団精神療法の有効性についても学ぶ。

【定員】 10名

構造的家族療法入門

トレーナー ラルフ・モラ (個人開業/メリーランド大学)

フロイトの人格構造理論は、個人が外的世界での生活に適合して順応するように努力するときに、イド、自我、超自我のメカニズムが互いに一貫性のあるコミュニケーションをすることを強調した。同様に、ミニューチンの家族構造理論は、家族メンバー間の相互作用は意識と無意識の両方のメカニズムだと仮定し、それらは家族が適応的に世界と関わる手助けをするためのものであるとしている。個人の病理と同じく家族の病理は、家族の防衛機制を通じて強化された不適応なパターンを引き起こす。家族システムのなかで構造的な病理は、様々な家族のメンバー間のパウンダリーの問題を通じて最もたやすく可視化される。両親は、初めに子どもの価値体系の基礎構造、すなわち超自我、を与えるユニットと成る。子どもと家族が心理社会的に、また対人関係的に発達していくにつれ、養育における間違いや親の個人的な病理はしばしば拡大され、家族の中の様々なメンバーが取る役割によって強化される不適応なパターンの一部となる。そのような役割は、潜在的な不適応な家族の構造やしばしば世代間にまたがるコミュニケーションの体系によって生じるのである。

精神分析的な個人心理療法とは異なり、構造的家族療法はセラピストによる介入に関して高度に能動的なアプローチを要する。セラピストは、不適応的な家族のパターンとそれらが家族構造においてどのように顕在化し維持されているのか気付かなければならない。家族におけるそれぞれの役割に気付き、それらに対する洞察を得ていくためには、セラピストや個人の家族メンバーが能動的な方略や技術を使うことが必要である。実際には、家族療法では家族病理に対処するための手助けとして家族の自我の健康な部分を利用する。

このワークショップでは、最初に構造的家族理論の概要と、それがどのように自我心理学の原理(教義)を反映しているかについて焦点を当てていく。さらに構造的家族理論の主要な側面を強調するために、ビデオや参加者による実演(デモンストレーション)の両方を活動として行う予定である。査定や倫理的・実務的な配慮についても議論していく。

【目標】・構造的家族療法の理論およびそれが自我心理学とどのように関連しているのかについての知識を得ること

- ・いつ・どこで・どのように構造的家族療法のアプローチを使うべきかについての知識を得ること
- ・心理力動的な枠組みの中で構造的家族療法を実施することに対する実践的な知識を得ること
- ・構造的家族療法を行うことに関する倫理的・実務的な配慮についての知識を得ること

※ このワークショップには当日通訳がつきます。

応答構成入門

トレーナー 能 幸夫 (PAS 心理教育研究所)
 有光 裕子 (PAS 心理教育研究所)

応答構成訓練とは、実際の心理面接から再構成されたクライアントの発言を素材に、その発言に対する援助者自身の応答を体系的に組み立て、精錬していく訓練です。

具体的には、クライアントの発言を載せた抜粋を前にして、すぐ浮かんでくる応答を皮切りに、発言内容、クライアント感情、セラピスト感情を整理した上で、応答を構成していく訓練です。

わたしたちの臨床の仕事はこの応答能力そのものが武器となります。心理療法の訓練は、応答構成に始まり応答構成に終わるといっても決して大げさなことではないのです。

本ワークショップでは、この応答構成をやってみて、その面白さを体験することが目的です。応答構成を体験してみることで、これから心理療法を学ぼうとする人や心理療法に関心があっても実際にケースをもってない人にとっても、心理療法の基礎に触れるチャンスとなります。

ともに楽しく学びましょう。

【定員】 7名以内

演題募集

演題募集プログラム

1. IADP 理事会企画セミナー「事例報告から事例研究へ」	11月3日(祝・金)	17:00 - 19:00
2. 臨床研究発表	11月4日(土)	9:30 - 12:00
3. 事例スーパービジョン	11月5日(日)	9:30 - 11:30

1. IADP 理事会企画セミナー 「事例報告から事例研究へ」

良い事例報告はそのまま事例研究であると国際的には言われていますが、なかなか良い事例報告をすることも難しいのが私たち共通の課題です。そこで今現在、自分が関わっている患者/クライアントの事例をまず事例報告にまとめたい方、さらには事例研究にチャレンジしたいという方のため、2つのセミナーを準備しました。今、皆さんが直接関わっている事例をお持ちいただき、事例展開のスーパービジョンを受けながら、その事例を事例報告としてどうまとめられるか、何が研究できるのか、を参加者全員で具体的に検討していきます。

定員 2名(①事例報告にまとめたい方1名・②事例研究にチャレンジしたい方1名)

時間 1事例2時間

講師 IADP 理事(小谷 英文・雨宮 基博・石川 与志也・嶋田 一樹・武野 顕吾・中村 有希・能 幸夫・橋本 和典)

2. 臨床研究発表

第23回年次大会(IADP 2017)の臨床研究発表は、「事例報告」「事例研究」「リサーチ」の3部門に分けて、20名募集します。以下の募集臨床領域と募集テーマについての臨床研究発表を歓迎いたします。なお、ご発表される部門や申込受理の可否については、大会査読委員会で決定いたしますので、予めご承知おきください。

※「事例報告」「事例研究」「リサーチ」の3部門の詳細については大会ウェブサイト掲載の研究発表要項をご参照ください。

定員 20名(申込受理が20名になった段階で締め切らせていただきます。)

時間 1発表30分(20分発表、10分ディスカッション)

募集臨床領域

- 1) 開業
- 2) 精神看護
- 3) 病院・クリニック・医療
- 4) 学校・教育相談
- 5) 学生相談
- 6) 療育
- 7) 産業・エグゼティブ
- 8) アスリート・スポーツ
- 9) 司法・矯正

募集テーマ

- ① 処方・治療法
- ・心理療法/精神療法
- ・集団精神療法
- ・プレイセラピー/活動療法
- ・ガイダンス/カウンセリング/グリーフカウンセリング
- ・コンサルテーション/コーチング/組織開発
- ・危機介入
- ・リエゾン精神看護/精神科病院における精神看護
- ターミナルケア・緩和ケア/喪失(モーニングワーク) / 難病
- 患者・慢性患者へのセルフケア/急性期の状態にある患者へ

- ・の危機介入/CNSの力動的介入技法など
- ・メガ災害対応臨床
- ② 発達・成長と病理
- ・発達と成長
- 幼児期/学童期/思春期/青年期/成人期/老年期など
- ・精神病理
- 抑うつ/神経症/パーソナリティ障害/統合失調症/トラウマ・PTSD/発達障害様問題行動など
- ③ 技法・技法開発
- ・心理療法技法/力動的介入技法
- ・心理教育/プレセラピー技法開発
- Socio-Energetic Training(SET) / Story Making Group(SMG)
- /アサーション・トレーニングなど
- ④ 大会テーマ関連
- ・自我および人格構造・機能に関する研究
- 自我への介入/自我機能・自我発達の査定/自我の適応機制・防衛機制/自我と自己の相互作用/自我と超自我の関係力動など

3. 事例スーパービジョン

国内・海外のレジェンドセラピスト、第一線で活躍するセラピストおよびCNSによる事例スーパービジョンを受けたい方を募集します。以下のスーパーヴァイザーのキーワードを参考に、希望スーパーヴァイザーをお選びください。発表は日本語もしくは英語のいずれかとなります。海外のセラピストからスーパービジョンを受けたい場合には、英語での発表を歓迎しますが、アロンソン先生、モラ先生のスーパービジョンの際は通訳がつくため、発表は日本語でも可能です。ただし、発表要旨は英語で作成していただきますので、ご注意ください。英語での発表要旨作成に関してご心配な点がございましたら、大会事務局までご相談ください。

スーパーヴァイザー

- ① 吉松和哉(式場病院): 精神病・病院臨床・集団精神療法 (1事例)
- ② 牛島定信(ほづみクリニック): 青年期・パーソナリティ障害・うつ・統合失調症・スキゾイド (1事例)
- ③ ラルフ・モラ(個人開業/メリーランド大学): 子ども・家族・PTSD (2事例)
- ④ セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所): 思春期青年期・集団精神療法・トラウマ (1事例)
- ⑤ 宇佐美しおり(熊本大学大学院生命科学研究部): リエゾン・精神科看護・アウトリーチ・組織における役割開発 (2事例)
- ⑥ 橋本和典(PAS心理教育研究所): トラウマ/PTSD・行動化症候群・青年期 (1事例)

定員 ①②④⑥:1事例 ③⑤:2事例

時間 ①②④⑥:1事例2時間 ③⑤:1事例1時間

申込手続き

演題発表申込手続き

演題発表を希望される方は、3プログラム共に、「演題登録用紙」に必要事項を記入して、大会事務局までメールもしくはファックスにてお送りください。演題登録用紙は、大会ウェブサイトからワードファイルでダウンロードすることもできます。

後日、大会事務局より「研究発表要項」および「発表要旨テンプレート」をお送りします。「研究発表要項」は、大会ウェブサイトからご覧いただけます。

なお、各発表は「4) 発表要旨受理の審査」によって受理された順に定員となり次第締切となります。お早めにお申込ください。

発表までのスケジュール

- 1) 演題登録: 演題用紙の提出受付期間 2017年4月15日(土) から7月14日(金)
- 2) 「研究発表要項」および「発表要旨テンプレート」の受取
- 3) 発表要旨の作成・提出 締切: 2017年7月31日(月)
- 4) 発表要旨受理の審査
- 5) 審査結果の通知 提出後約2週間
- 6) 最終発表要旨の提出 2017年9月8日(金)
- 7) 当日発表

注記

- ・全ての発表は、該当関係団体の倫理規定、法律に則って行われたという条件の下で受理いたします。
- ・研究助成金等による臨床研究発表は、研究助成金名や、研究に際し支援・協力を受けた団体・個人についても、必要に応じて「付記」としてご記入ください。
- ・企業・法人組織等からの補助や援助(金額は問いません)を受けている場合、または、応募演題に関係する企業の被雇用者が共同研究者に含まれる場合は、その事実を明記してください(利益相反の公開義務)。なお、公的な研究助成金等(科研費等)は利益相反の申告事項には含まれませんが、助成がある場合には、発表時に公開することとします。
- ・発表要旨をご提出される前に、共同発表者と内容の確認を行ってください。

第23回年次大会 大会組織

大会会長 ----- 能 幸夫 (PAS 心理教育研究所 所長)

大会組織委員会

委員長 ----- 能 幸夫 (大会会長 / PAS 心理教育研究所 所長)
 委員 ----- 宇佐美 しおり (熊本大学大学院生命科学研究部 教授)
 橋本和典 (PAS 心理教育研究所 理事)
 吉田 愛 (PAS 心理教育研究所)
 石川 与志也 (ルーテル学院大学 専任講師 / PAS 心理教育研究所)
 南 貞雅 (PAS 心理教育研究所)

学術プログラム委員会

委員長 ----- 石川 与志也 (ルーテル学院大学 専任講師 / PAS 心理教育研究所)
 委員 ----- 雨宮 基博 (都留市立旭小学校 教頭)
 宇佐美 しおり (熊本大学大学院生命科学研究部 教授)
 橋本 和典 (PAS 心理教育研究所 理事)
 中村 有希 (PAS 心理教育研究所 / 東京医科大学 非常勤講師)

大会事務局

大会事務局長 - 吉田 愛 (PAS 心理教育研究所)
 事務局長補佐 - 石川 与志也 (PAS 心理教育研究所 / ルーテル学院大学)
 南 貞雅 (PAS 心理教育研究所 / 杉並区特別支援教育課)
 広報 ----- 花井 俊紀 (PAS 心理教育研究所 / 野の花カウンセリングオフィス)
 雨宮 基博 (都留市立旭小学校)
 受付 ----- 中村 有希 (PAS 心理教育研究所 / 東京医科大学)
 田中 令子 (王子こころのクリニック)
 平松 明子 (社会医療法人博愛会相良病院)
 助成金 ----- 山下 由紀子 (PAS 心理教育研究所 / 帝京平成大学)
 会計 ----- 植松 晃子 (PAS 心理教育研究所 / ルーテル学院大学)
 会場 ----- 高田 毅 (PAS 心理教育研究所 / 健康科学大学)
 田村 郁衣 (PAS 心理教育研究所 / 横浜創英中学・高等学校)
 宮崎 志保 (熊本大学大学院)
 有働 佳代 (特定医療法人富尾会桜が丘病院)
 長野 真澄 (熊本大学大学院)
 成井 花奈恵 (公益財団法人日本心臓血管研究振興会付属榊原記念病院)
 小西 利奈 (熊本大学医学部附属病院)
 村上 晶代 (熊本大学大学院)
 渉外 ----- 有光 裕子 (PAS 心理教育研究所 / 東京衛生学園専門学校)
 菅原 千代子 (PAS 心理教育研究所 / 横浜市スクールカウンセラー)
 通訳・翻訳 ----- 髭 香代子 (PAS 心理教育研究所)

大会参加手続き

大会参加手続き

大会参加形式は、①全日程参加、②訓練ワークショップ(2017年11月4日14:15-18:45)のみの参加、の2形式があります。

申込書にご記入の上、E-mailまたはFAXで大会事務局(下記参照)までお申込みください。申込書は、国際力動的心理療学会(IADP)ホームページからダウンロードできます。

国際力動的心理療学会第23回年次大会ウェブサイト：<http://www.23annual.iadp.info/>
 参加申込み締切り：2017年9月30日(土)
 FAX： 03-6407-8201
 メールアドレス： office23@23annual.iadp.info

※ お申込み後、2週間ほどで大会事務局より受理通知をお送りいたします。お待ちいただいても受理通知が届かない場合は、お手数ですが大会事務局までご連絡ください。(メールでの連絡をご希望の方は、上記の専用メールアドレスを受信できるよう登録をお願いします。)

※ 訓練ワークショップには定員が設定されているものがあります。ご希望のワークショップが定員となり次第、第2希望以降のワークショップとさせていただきます。お早めにお申込みください。

※ 参加形式②は2017年11月4日14:15-18:45に開催される訓練ワークショップのみに参加が可能です。その他のプログラムに参加するためには大会参加形式①全日程参加でお申し込みください。

大会参加費

①全日程参加

会員： 14,000円
 非会員： 17,000円
 学生(大学院生を含む)： 12,000円
 懇親会費： 4,500円

②訓練ワークショップのみの参加

一律： 5,000円

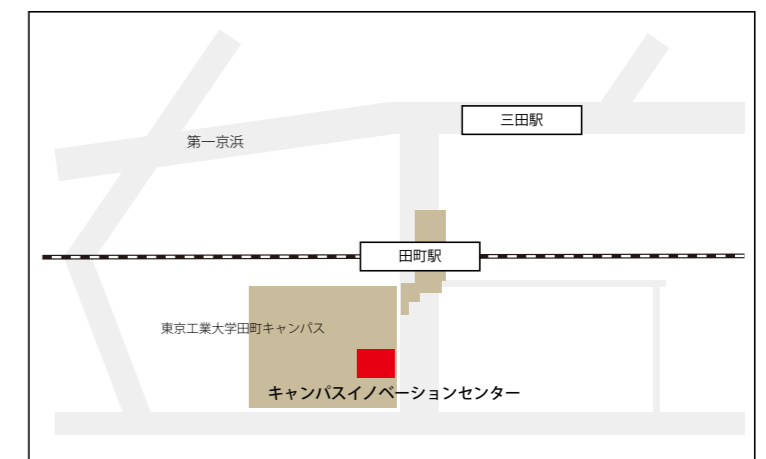
会場・アクセス

大会会場

東京工業大学(田町キャンパス)キャンパスイノベーションセンター
 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

最寄り駅

JR山手線・京浜東北線 田町駅下車 徒歩1分
 都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅 徒歩5分



会場マップ

大会事務局

国際力動的心理療法学会 第23回年次大会

大会事務局長：吉田 愛 (PAS 心理教育研究所)

大会事務局：〒153-0041 東京都目黒区駒場 2-8-9 PAS 心理教育研究所内

TEL & FAX: 03-6407-8201

大会ウェブサイト: <http://www.23annual.iadp.info/>

学会ウェブサイト: <http://www.iadp.info/>

メールアドレス: office23@23annual.iadp.info